

十市地区 市政こん談会

県下でも最も早く改築が急がれる十市小、十二年を経てなかなか進展しないパークタウン構想など、問題をかかえる十市地区で、十一月二十日、市政こん談会が十市小講堂で行われました。この日は授業参観日ということで、子どもたちの父兄が多く地元住民六十人が、市から吉本助役、門田教育長、またパークタウン問題の関連から県住宅供給公社も出席し、まず各担当から概要の説明を受けました。

パークタウン前進

●市政全般

高知空港は、五十八年度ジェット化を目ざし工事が順調に進み、それに伴う騒音対策についても、コンタクトにしたい意見修正をした上で五十七、五十八年度に民

●家防工事実施されます

比江山は十鈴に木材工業団地が建ち、財政的には市民税、固定資産税などの増収になり、雇用の面でも市内から五十二人が採用されています。また工場再配置による補助金で、公民館改築など地元整備も進んでいます。残地七鈴については、県に買ってもらい公園化が最良の方法として働きかけていますが、今、話が進んでいるのが中小企業大学の誘致で、来年一月には結論が出る予定です。高度成長時代に先行投機をし、公社に二十二億円の借金がありましたが、比江山の残地処分をすれば十億が解消されると思います。計画としては、毎年二億円を償還していく方針で、行政水準を落とさずに解消に努めていきたいと思っています。

●小学校・公民館改築

十市小の新校舎の位置は、パー

クタウン東端に決まり、現在の場所からなるべく西へ寄らないようにということでしたが、山の近くで陽当りがよくないので、少し西へ寄りました。

計画は、来年三月までに用地造成を済ませ、五十八年度中に校舎、給食室、体育館をいっしょに建て



地元住民約60人が参加して開かれた市政こん談会

十市小改築、58年度着工を約束

五十九年四月には子どもたちが入れるようにしたいと思っています。パークタウンが完成し、児童数が大幅に増加した場合は、増築を考えたいです。

地区公民館改築は検討中ではありましたが、小学校移転でこの講堂も公民館専用として使っていた

けますので、もう少しがまんしてもらいたい。

●十市パークタウン

この計画は昭和四十五年、環境の整備された住宅を供給しようと始められたものですが、一部地権者の了解が得られず全面買収が困難となり、その間地価の上昇、減

歩率の問題などが生じこう着状態になっていました。しかし、住宅公社が事業施行者となって行う方式で、ようやく事業のめどがたち、現在工事認可の手続きを行っています。少なくとも、十二月中には認可がおりると思います。

今年四月には、事務所を現場に移し地元との話し合いを進め、土地の測量にも入っています。また工事のため、移転してもらわなければならない錦城地区三十戸については、仮住居を建て四十五年の間住んでもらうよう話を進めています。

予定では、工区を五つに分け、道路、学校、上下水道などを整備し、最終的には総戸数千六百戸、

人口は五千六百人になる見込みです。

意見交換など

○十市は南国市の端ということで、道路改修など遅れているように思うが。

○これからは、行政の不均衡がないように努めます。

○十市小は、五十九年度に新しい校舎になるということだが、それまでの間も危険防止のため修理してもらいたい。

○一年少しすればすぐ壊すこともあり、やむを得ない場合は修繕しますが、がまんできる範囲はこらえてもらいたい。

○パークタウンで宅地にする場合、

どのくらいかさ上げされるのか。

●約五鈴から三段階に分け、高いところでは二十鈴ぐらいになると

思います。○地権者ですが、替え地はどの辺になるのか具体的に教えて欲しい。●希望を聞いて調整してゆきますが、十年前の約束には不可能な面もあります。

約二時間のこん談会では、最も切迫した問題であった十市小改築が、五十九年四月完成と約束されたことで、父兄のみなさんもほっとしたようでした。また、パークタウン問題では、生活環境の整備が進むものの、地区住民にとってどれだけのメリットがあるのか、不安も残っているようです。

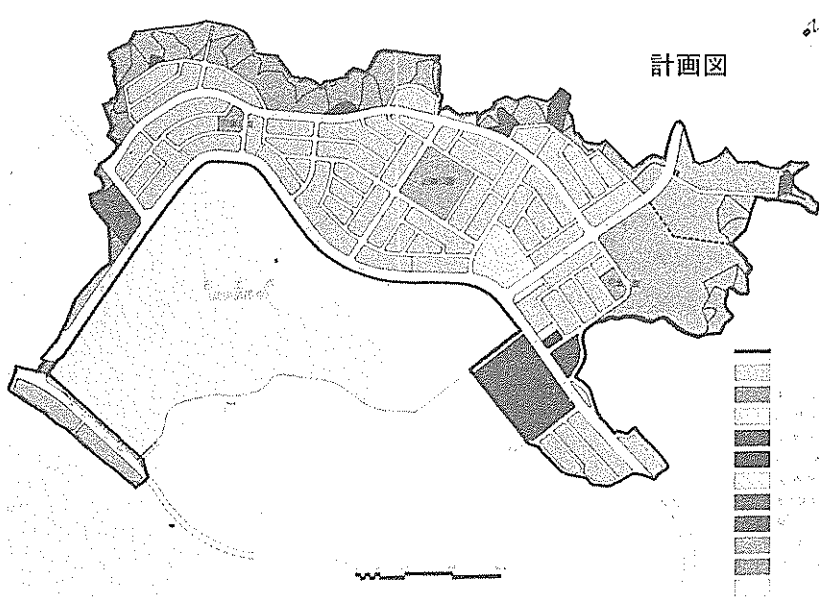
パークタウン構想の概要

高知県住宅供給公社が進めている「十市パークタウン」は、十市土地画整理事業」構想の全貌がこのほど明らかになりました。十市パークタウンは、十二年前に高知市三里を含む大規模ニュータウン構想として原案ができましたが、五十二年九月にこの規模を縮小。五十四年九月には十市の錦城地区を中心とした九十二鈴が「市街化区域」に指定されました。

五十七年五月、土地画整理法の一部改正で組合方式による開発計画が、住宅供給公社が施工主体となつて行うことができるようになり、十市パークタウンは十二年前にさまたまな紆余曲折を経て、いよいよ本格的な工事がスタートすることになりました。今年の八月には基本計画を策定、現在事業計画の認可を年内に受け

計画の概要

基本計画によると、約五十八鈴の区域に住宅約千六百戸を建築し、約五千六百人の人口を定住させる見込みです。このほか、道路や公園、学校、上下水道等の施設が整備されます。総事業費は約百三十億円、うち画整理事業に約九十七億円、公共下水道事業に約三十二億円となっています。(五十八年度単価) 工事は全体を五工区にわけ、昭和六十三年完成を目指して行われます。



県住宅供給公社が進めている十市パークタウン（計画図）